

全国油脂販売業者連合会 第70回定時総会並びに 創立70周年記念講演会及び記念式典・祝賀パーティー開催

日時 令和5年10月24日（火）14：45～18：30
場所 ロイヤルパークホテル 春海の間・有明の間

全国油脂販売業者連合会は、昭和28年（1953年）3月2日に設立されてから本年で70周年を迎え、創立70周年記念講演会及び記念式典・祝賀パーティーを開催した。

総会では、令和4年度事業報告及び決算報告並びに令和5年度事業計画案及び予算案が原案のとおり承認された。

総会后、第1部の記念講演会を開催。株式会社農林中金総合研究所理事長 皆川芳嗣様（元 農林水産事務次官）が「内外の政治・社会・経済の変化を体験的に振り返り未来を考える」をテーマに、政治、経済、地球環境、農林水産政策について話されたあと、障害者の農業分野での活躍を通じて農業・福祉の両分野の課題を図る「農福連携」について詳しく語った。



皆川氏の講演

第2部の祝賀パーティーでは、開催にあたり宇田川公喜副会長が「戦後、油糧配給公団が解散して統制が解除されたのが昭和25年。その後朝鮮戦争による特需があり、2年後に戦争が終わると、新三品と言われた油脂、ゴム、皮革が先物で大暴落。油脂業界も大混乱に陥り、そこで大同団結して組織を作ろうということになり、昭和28年に全油販連が設立された。当時、食用油は高級なものだったので一般的にことばとして使われていなかった。そこで食用油を全国に広めていくことと安定供給、製販の大同団結を願って立ち上がったのが70年前であった」と挨拶をした。



宇田川副会長の挨拶

次に一般社団法人日本植物油協会 新妻一彦会長（昭和産業㈱会長）より「貴連合会は単なる卸業務に留まらず、市場ニーズの把握や合理的な流通を担う存在へと変貌を遂げた。油脂販売における唯一の全国団体として、油脂メーカーと車の両輪のごとく一体となり、連携を強め、油脂流通の円滑化と需要開拓に積極的に取り組み、油脂の安定供給と市場拡大に大きく貢献された。現在、干ばつの影響やウクライナ紛争の長期化に加え、中近東では新たな紛争も始まり、エネルギー価格の高騰や円安の継続などさまざまな外的要因も加わり、依然として植物油を取り巻く環境は大変厳しい局面が続いている。この難局を乗り切るためには製販の関係者が「Our Team」で一体となってさらに絆を深めていくことが必要だと感じている」と祝辞をいただき乾杯となった。



日油協新妻会長の御祝辞

乾杯後、御来賓の農林水産省の宮浦浩司大臣官房総括審議官（新事業・食品事業）、渡邊頭太郎食品製造課長等が到着されたところで、記念式典を開催し、初めに館野洋一郎会長が以下の内容の式辞を朗読した。

「70年前、全油販連は、『戦後の統制解除後の原料・製品の品不足』と『朝鮮戦争後の輸入原料の供給過剰』が短期間に生じた混乱期において、政府への各種要請及び油脂メーカーとの協調・連携を図ることを主眼として設立されました。設立当時は東京・関西・愛知を中心に神奈川・福岡・山口・熊本・長崎の団体など一都十六府県に及ぶ各地域の油問屋・油脂卸が大同団結した体制であったことが窺えます。

そのような中で全油販連では、『食用油の消費増進』『油脂販売店の保護・育成』『適正利潤の確保』をいわゆる長期事業計画として展開していきました。このうち『食用油の消費増進』については、戦後の国民の栄養不足を高カロリー食で改善しようというスローガンの下、当時の農林省・食糧庁や油脂製造業界の後援も頂きながら各種イベントを展開しており、例えば、油脂類を使った調理法を講習する『油脂教室』の開催は、昭和

32年に全国で80回にも及びました。

また、昭和40年代の高度成長と狂乱物価の時代に入りますと、これに対応した新たな油脂流通システムの構築が課題となったため、油脂メーカーとの『製販懇談会』を定期的開催するようになり、油脂の安定供給や市況問題について忌憚のない意見を交わしあう場として大きな役割を果たすようになりました。

最近では、油脂業界の未来図を描くための若手経営者や従業員向けの研修として企画される『油の花フォーラム』や『油脂未来セミナー』についても、日本植物油協会や油脂メーカー各社の御協力によって、毎回、大変有意義な機会となっているところです。

このように全油販連が時代ごとの様々な課題を乗り越えて今日まで前進してまいれたのは、皆様方の御理解・御支援の賜物であり、改めまして、心より感謝申し上げる次第です。

近年、油脂業界を取り巻く環境は大きく変わり、コロナ禍によるライフスタイルや価値観の変化によって生じた新しい需要への対応や、地球温暖化や国際情勢の変動を踏まえた油脂の安定供給の在り方が喫緊の課題になっています。今後は全油販連の『70年間の歩み』の中に指針を見出しながら、原点に立ち返った事業展開が重要となるものと存じています。需要と供給の両面でパラダイムシフトが生じている今だからこそ、『新しい食用油の需要の把握・開拓』と『新たな安定供給の枠組みの構築』、『そのような役割・機能を果たしていける経営の確立』、に向けて、歩みを進めていければと存じます。』

続いて、農林水産省の宮浦浩司大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）より「全油販連様は戦後の復興期からずっと国民生活を支えてこられた。昨今、世界の情勢が変化し、これまでと同じサービスを皆様方が取引先様に提供するのが難しくなっていると私も感じている。この70年の長きにわたり、常に変わりながら障害を乗り越えてこられた皆様方にお知恵を拝借しながら、一緒に次の時代に繋がるような取組を進められたらと思う」との祝辞を頂き、農林水産大臣感謝状と大臣官房長感謝状が授与された。農林水産大臣感謝状は、金田雅律氏（㈱マスキチ社長）、浅井修氏（富田産業㈱会長）、木村顕治氏（㈱マルキチ社長）、宇田川公喜氏（㈱宇田川商店社長）、太田健介氏（太田油脂㈱社長）の5名が受賞。大臣官房長感謝状は、酒井英彦氏（㈱大新社長）、大家章嘉氏（㈱大家商店社長）、佐橋徳洋氏（㈱徳万商事社長）、大家正光氏（(資)大家商店代表社員）、中川雅弘氏（中川油脂㈱社長）、木村真治氏（㈱ナニワ社長）、伊藤盛康氏（東海油化学商事㈱社長）、穴水健治氏（穴水㈱社長）の8名が受賞。金田氏が代表して謝辞を述べた。

記念式典終了後、祝賀パーティーは和やかに進行し、最後に木村顕治副会長（関西油脂連合会会長）と佐橋徳洋副会長（愛知県油脂卸協同組合理事長）が油メを行った。

なお、本来は、第1部 記念式典、第2部 記念講演会、第3部 祝賀パーティーの予定であったが、御来賓・感謝状授与者である農林水産省幹部の方々のやむを得ない御事情により、急遽、記念式典は祝賀パーティーの中で行うこととなった。当日、農林水産省の方々には御多忙中にも拘わらず駆け付けていただき、無事に式典を開催することができた。



館野会長の式辞



宮浦審議官の御祝辞



木村副会長、佐橋副会長の油メ



農林水産大臣感謝状受賞者



大臣官房長感謝状受賞者